

がんばろう 南三陸町

復興第 14 号

南三陸マイタウン情報

月刊

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援：
志津川広報センター



午前と午後2回の餅まき大会

南三陸町入谷地区の「ひころの里」で11月11日10時より、「秋まつり」が開催され、多くの地域民や仮設生活者そして町外からも大勢の人が集まった。入谷には10の地区があり、地区ごとにテントが張られ、野菜・お餅・焼き鳥・遊びなど、地区ごとに会場を盛り上げていた。「くるみ餅」は11時前には売り切れ、「あん餅」も後わずかとの声に多くの人々が行列となり買い求めている。

入谷婦人部のダンスは元気そのもので、会場の子供達や応援に駆け付けた仙台の団体も踊りだし、その後「花笠おどり」で会場を盛り上げた。



入谷手打ちそば打研究会

入谷地区代表の西城新市会長は「落ち込んでばかりはいられない。盛大に!」「若い人たちや婦人部が盛大に」と今年の今年の秋祭り開催の意気込みを語った。その気持が1500個の餅まきとなった。「餅まき大会」は最高の盛り上がりを見せ、「入谷地区民の心意気」を発揮して、これでもかと言うほど、盛大に大量にまかれた。「校長先生こっちにもまいて」と、小学校の父兄だろうか、商品の番号の入った「まき餅」に、先を争うように追いかけていた。



入谷小児童打囃子

入谷小児童による「打ち囃子」では、子供たちの元気と笑顔が、町民の再建への力となっているように見え、家族の打ち囃子への取組の厳しさも、力強い伝統継承に対する地域性を感じた。写真は「入谷打ち囃子」の獅子と舞手の写真だが、この囃子舞いは子供たちが、次から次と「獅子」と「舞手」に早変わりする。児童全員が主役で学区上げての伝統芸能で、後世への継承を続けてもらいたい。

入谷秋まつり支援

11月11日の会場には「かっぱう着」姿のお母さん達が南三陸町入谷に駆け付け、「ひころの里秋まつり」の活動を被災地支援の一環として応援してくれました。



地域絆事業

仙台市青葉区西地区の皆さんが、仙台市宮城西市民センターの食だより「おらほの自慢」として、「はっと汁」と「豚汁」を無料で会場に集まった方々にサービスをしてくれ、テントの前は長行列となった。また、プログラムの中でも花笠を手に、ステージいっぱい「花笠踊り」で会場を盛り上げてくれた。

被災地「南三陸町」に、入谷地区と仙台市青葉区西地区との地域間交流が復興への強い絆として今回実現した。10地区代表の西城さんは、「皆さんのこうした活動から大きな力をもらっています」と一日も早く被災地に元の賑わいが戻ってほしいと話してくれた。



豚汁に行列



11月15日、入谷公民館前の空地に、「入谷デイサービスセンター」が建設される。その地鎮祭が社会福祉協議会により、町・関係機関の40名余りにより開催された。

宮司さんのお払いで工事の安全を祈願し、代表者の玉串奉奠と「エイ、エイ、エイ」の掛け声でくわ入れが行なわれた。

社会福祉協議会の阿部会長は、デイサービス利用者の、入谷地区の皆さまに関しては、1時間の送迎時間を要し、被災後は大変ご迷惑をかけたと話し、今回の建設に当たっては、国・県の補助事業の他に2法人からの協力を得て、建設の運びとなったと報告された。

また、地権者の協力と、設計・施工にも被災地として、非常時に対応する施設内容を配し、多くの機能を備えたデイサービスセンターにしたいと、協力団体への感謝を伝えた。町からは遠藤副町長が参加した。



地鎮祭



ボランティア支援に感謝
(志津川市街地 11月21日)

上の山緑地下

読者の要望により「戸倉ブルーウェーブ」の子供たちの素顔を見たいにお答えします



タウン誌先月号に掲載した、戸倉ブルーウェーブの選手紹介と写真の経緯をお伝えします。



高津選手

高津臣吾 (たかつしんご)
広島県出身でヤクルトでプレーし、NBA歴代2位通算 286 セーブ。至上2人目となる日米通算 300 セーブを記録。



清野さん

上記写真は今年、戸倉地区を訪れた際に荒町のドライブイン一休みの佐々木さんから少年野球チーム戸倉ブルーウェーブの存在活動聞き、9月新潟にまねかれ親善試合を行って来た時の写真です。今後の活動に応援、支援して行きたいものです。

背番号 (前列向かって左から)
⑤渡辺柊真(6年生) ①阿部 輝(5年生) ⑧三浦貴秀(4年生) ⑮須藤卓亜希(1年生) ⑪三浦裕太(3年生) ②渡辺知冬(3年生) ⑫佐々木 俊(3年生) ⑬三浦和歌子(2年生) ⑨須藤璃空(3年生) ⑦三浦志保(4年生) ③小林岬太郎(6年生) ⑩佐々木龍斗(6年生) ⑥小林汐樹(4年生) ④安部美幸(4年生) ⑭阿部透也(2年生・欠席)
会長 佐々木和志 監督 阿部富士夫

南三陸町スポーツ少年団の紹介をします。ご寄稿ください。

歌中祭前号の続き



つながり

福岡県筑紫野中からエール

引続き「歌津中少年防災クラブ」の演技・発表では、中学生の大人びた「通常点検」、男女の「軽可搬ポンプ応用操法」の演技披露には会場から盛大な拍手が送られた。

小野寺文晃校長先生の挨拶では、「笑顔は人を幸せにし、未来への希望や可能性がある。」「皆さんは歌津のエネルギーの源になる事を信じている」と語った。

10 時 30 分からの吹奏楽演奏は「飛翔」から始まり、全 6 曲のステージでの演奏にアンコールの拍手が起こり、吹奏楽部が突然の要望に急遽応じてくれた。

午後のクラスパフォーマンスまで、歌津地区の皆さんとの楽しい一日を過ごした。会場には、九州の筑紫野中学校よりの応援のくす玉に絆の文字が書かれた、被災地応援の「第 63 回かんどう祭」の制作作品が飾られていた。

(前号の少年防火クラブは、少年防災クラブの誤りです。)



吹奏楽演奏「飛翔」

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成24年(2012年) 10月の出来事
～ 地元報道より～

◆買い取りの受付開始

南三陸町は10月1日、志津川市街地などの災害危険区域を指定した。これにより町内すべての区域指定の終了し、全域で住宅用地の買い取り申出書の受け付けも始まった。

◆JA 南三陸米が初出荷

JA 南三陸のブランド米「南三陸米」が10月2日に初出荷され、気仙沼市や南三陸町などで一斉に販売を開始した。

◆仮設カキ処理場完成

南三陸町旭ヶ浦地内に共同カキ処理場が建設された。県内で復旧した処理場としては第1号になる。10月4日には現地で落成式が行われ、関係者らが完成を祝った。

◆新たな水源調査実施

南三陸町の水源は5か所のあったうち、震災により3か所が被災。現在使用されている水源の場所にも河川堤防などが計画されている。このため南三陸町上下水道事業所は、町内4カ所で新たな水源調査を進めている。

◆歌津に震災後初の直売所

南三陸町歌津管の浜地内に10月7日、地場産品直売所「みなさん館」がオープンした。町内の農、漁業者の顔写真とともに新鮮な作物や魚介類のほか、ワカメなどの海産品、木工品や復興グッズなどが並び、当日は多くの買い物客でにぎわった。

◆「改革みやぎ」がれき処理など視察

県議会民主党会派の一つ「改革みやぎ」のメンバーが10月18日に南三陸町を訪れ、戸倉地区のがれき処理場や波伝谷漁港を視察し、地元の要望を聞き取った。

◆農業継続 半数が「無理」

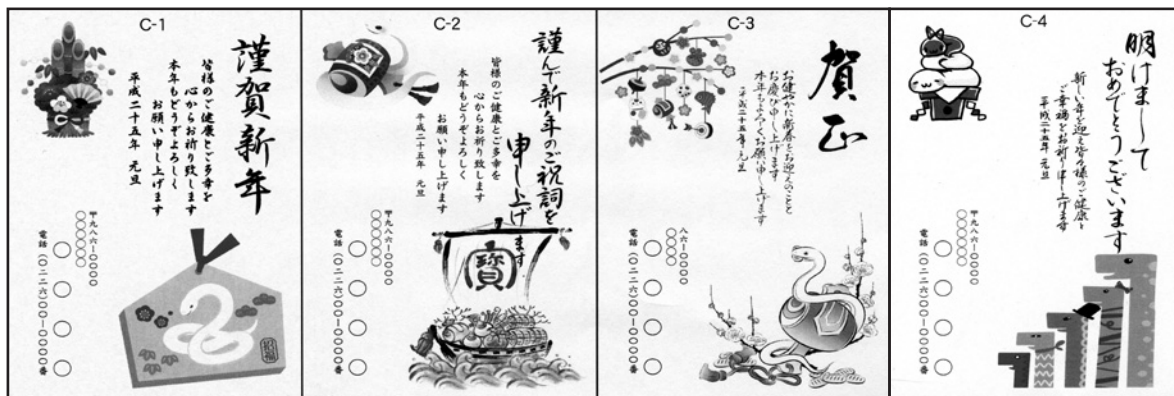
南三陸町で農業を継続できない状況の農家が半数以上いることが町の意向調査で分かった。津波による機械の流失、高齢化が主な理由となった。

◆家屋の基礎撤去始まる

南三陸町で被災した家屋の基礎撤去作業が始まった。来年3月までの予定で、撤去したコンクリートは、かさ上げや防潮堤などに再利用される。

◆子育て支援、中学生まで引き上げ

南三陸町は10月から「乳幼児医療費助成」を「子ども医療費助成」に変更し、対象を未就学児から中学生まで一気に引き上げた。義務教育が終わるまで入通院の窓口負担をなくし、子育てを支援することで定住化につながれば一と考えている。



年賀状見本!!

千葉総合印刷
TEL (0226) 46-3690

(郵便番号・住所・氏名・電話番号) 戸倉営業所 ▶ 荒町ワイヤープロセス前



◆南三陸町で研究会

東北地区青少年教育施設協議会の運営研究会が10月18日と19日に南三陸町の志津川自然の家で開かれた。東北6県の関係者54人が参加し、事例発表や講演会の聴講などを通じて青少年教育施設の在り方を探った。

◆佐藤町長が豪州訪問

南三陸町の佐藤仁町長は10月6日から9日までオーストラリアを訪問した。昨年、来町したギラード首相と面会し、震災支援に感謝を伝える。



◆豪州の支援で学習館

南三陸町で10月17日、Paiside Arena隣に豪州ニュージーランド銀行の支援により建設中のオーストラリア友好学習館の上棟式が行われた。

元祖復活！ 「キラキラ丼」

南三陸町産のイクラをメイン食材にした「キラキラ丼」の11月1日販売開始を前に、10月25日夜、南三陸さんさん商店街で関係者にお披露目された。今回のイクラ丼は「キラキラ丼」のネーミングの由来にもなった「元祖」で、イクラを65グラム以上にし、南三陸米を使用することなどを条件に9店舗が参加する。

◆教育環境の向上支援

宮城県に教職員を派遣している岐阜県教委の松川禮子教育長が18日、職員の派遣先になっている南三陸町内の小・中学校を視察した。

◆民間と初の災害協定

南三陸署は10月19日、さんさん館旧林際小学校運営事務組合と、地震などで庁舎が被災した場合に借用できるよう「大規模災害時における施設の使用に関する協定」を結んだ。

土地利用で個別相談会

志津川漁協支所から上の山方向を望む

◆土地利用意向を調査

南三陸町は、志津川市街地の土地利用に関する意向調査を開始した。10月から災害危険区域が設定されたことによって新たな住宅は建設できなくなったため、土地所有者の意向を把握し、まちづくりに反映させる。

南三陸町で10月29日から志津川市街地の地権者を対象にした今後の土地利用に関する個別相談会が始まった。